
2007年度 【平成19年度】

■組合員	19万3589人
■供給高	225億7166万円
■出資金	44億3992万円
■職員数	268人

- 6/18 第33回通常総代会開催
 - 6/23 「ファミリーピースウォーク」195人参加
 - 6/26 「コープ牛肉コロッケ」の原料偽装が発覚
 - 7/1 「コープ会」スタート
 - 7/4 あっぴるタウンで「子育てひろば」オープン
 - 8/16 浦添市と「災害時における物資の供給に関する協定」を締結
 - 9/20 県内8カ所で「商品の不安に関する意見交流会」を開催
 - 10/1 那覇市新都心地区のスーパーとともにコープ あっぴるタウンでもレジ袋有料化スタート。
 - 10/ みかわ屋登録システム開始
 - 10/1 農林水産省にっぽん食育推進事業「食事バランスガイド」の普及活動に取り組む(～3/31)
 - 11/1 秋の総代会議を開催。年3回に
 - 1/1 お年玉募金、この年からユニセフ募金+ボランティア団体募金へ(257万2710円)
 - 1/30 「中国製冷凍餃子」事件が発生
 - 2/21 コープ美里リニューアルオープン
 - 2/ 鳴門産わかめの原料産地偽装問題発生
「改正容器リサイクル法」施行(レジ袋、容器包装について、削減計画や実績報告義務など対応必要になる)
-

■組合員組織政策をスタート

組合員の参加を広げる「組合員組織政策」を制定。総代会議を年3回開催し、年間を通してコープおきなわの状況や方針、重要な政策について協議しました。また、各支所にくみかつ担当職員を配置し、組合員活動を支援・推進する体制を整備しました。

■原料・産地偽装問題

6月20日、ミートホープ(株)による「CO・OP 牛肉コロッケ」原料偽装問題が発覚。日本生協連やコープおきなわでも開発商品に対しDNA検査を含む総点検を行うなど、品質管理体制の強化と再発防止に向けて取り組みました。その間も組合員の皆さんからコープ商品や輸入商品の安全性など、商品についての不安の声が多数寄せられ、コープおきなわでは9月20日～10月6日の期間、県内8会場で、組合員とコープ職員が直に顔を合わせ、コープ商品の説明やいただいた声に答える「意見交流会」を開催。延べ53人の組合員さんが参加しました。

2008年1月には、「CO・OP 鳴門産わかめ」などの製造を委託していた徳島県の3業者が産地を偽装して販売していたことが発覚。牛肉コロッケの原料偽装に続く不祥事となり、コープ商品に対する信頼が大きく揺るがされました。

■中国製冷凍餃子事件

2008年1月、千葉県と兵庫県で健康被害が起きた「中国製冷凍餃子」事件が発生。日本生協連が開発、中国河北省天洋食品が製造、ジェイティーフーズ(株)が輸入した「CO・OP 手作り餃子」や「中華 de ごちそうひとくち餃子」からメタミドホスなどの薬物が検出されました。コープ商品で原料・産地偽装、重大中毒事故が立て続けに起きたことで、生協そのものへの信頼が著しく損なわれました。

これを受け、全国の生協とともにコープ商品の品質保証体系の再構築を進め、「品質保証システム」が築かれました。同システムでは、商品が産地→工場→生協→組合員とわたる段階で、それぞれが安全を守るために適正な管理（適正規範）を行います。その検証のため、生協では、産直産地やコープ商品の工場の定期的な現場点検、仕様書・包材のチェック、商品検査などを行っています。

その後、薬物は工場従業員が製造過程で意図的に混入させたものであることが明らかになりました。



■ 地域おこし商品開発の 取り組み開始（もずく丼）

行政と生産者とメーカー、コープおきなわが一緒になって「海人自慢のもずく丼」を共同開発。県産もずくを使った地元の人気メニューをレトルト商品化し、県内外にもずくを広め、生産者支援につなげました。この開発が成功事例となり、地域の困りごとに寄り添った商品を共同で開発し、地産地消や支援金の造成などへの取り組みが進みました。



2008年度 【平成20年度】

■組合員	19万4271人
■供給高	216億5881万円
■出資金	44億5761万円
■職員数	278人

- 4/ 生協法が60年ぶりに改正（07年5月）、施行され、定款・規約などを変更
 - 6/1 平和活動募金（132万7600円）
 - 6/1 「ミャンマー・サイクロン」「中国四川省大地震」緊急募金（26万6057円）（～29）
 - 6/17 第34回通常総代会開催
 - 6/23 「ファミリーピースウォーク」180人参加
 - 6/29 「第1回川まつり～牧港川に清流を取り戻そう～」に参加協力
 - 8/ 宅配サービス「コープまごころ便」開始
 - 9/1 総代選出時期を2月から9月に変更
 - 10/1 全県的にレジ袋無料配布中止、コープのお店でもレジ袋有料化スタート
 - 11/4 「秋の地域別総代会議」開催
 - 11/27 全店電子マネーE d y を導入
 - 11/ 組合員サービスセンター本格稼働
 - 11/30 県より「沖縄県環境保全功労賞」を受賞
 - 12/3 第35回臨時総代会開催
 - 12/13 「肝高のもずく餃子」の商品代の一部を助成金として「あまわり浪漫の会」贈呈
 - 1/ お年玉募金（217万6470円）
 - 1/17 農林水産省平成20年度食育先進地モデル実証事業「親子で健康！食育講演会」開催
 - 1/31 「生産者・商品交流集会」開催
 - 3/ 共済事業が元受共済事業から受託共済事業に移行
-

■生協法改正

生協について定めた国の法律「生協法」が、1948年の法制定以来、初めて改正され、4月1日から施行されることになりました。

生協の規模が大きくなり、組合員の信頼と期待、社会的責任に答えられる組織であることが求められる中、生協の運営規定の見直しや情報開示制度の強化などを盛り込んだ内容へと改正されました。

この改正は、生協が食の安全・環境・災害時の支援・福祉など、これまでの活動が高く評価され、これからも社会や消費者にとって、より一層役立つ組織であることへ、国からの信頼と期待の証でもあります。

■「まごころ便」開始

あっぶるカタログの商品（常温商品のみ）をコープで梱包して県内外の指定先へお届けする「コープまごころ便」がスタートしました。

県外でくらす家族に商品を送りたいときに、便利なサービスとして利用されています。

■レジ袋有料化スタート

10月1日より、全県的な取り組みとして、レジ袋の有料化がスタートしました。

コープおきなわでは、1年間で約3億1,200万枚の削減を目標に、2010年までにレジ袋辞退率80%をめざしました。

また、それまで組合員に負担していただいていた経費の中から、マイバック持参促進のためにマイバックポイントの付与を行ってきましたが、9月30日をもって終了し、その分を商品の安全性の確保の取り組みなど、別の改善要望へと向けました。

■「組合員サービスセンター」 開所

共同購入の配達や商品についての問い合わせ、電話注文など、電話受付業務は、それまで各支所で受付、対応していましたが、10月に組合員サービスセンターを開所。2009年2月には本島全域をエリアとして稼働するようになりました。組合員の皆さんからの電話問い合わせを一本化することで、より迅速な対応とサービスの向上につなげました。

組合員サービスセンターでは他にも、注文書の読み取りや管理、商品代金の入金処理なども行っており、注文書はデータベース管理されるようになりました。それによって約4週間分の注文がコンピュータ画面で確認できるようになり、注文内容や欠品情報などもその場で確認できることで、スピーディーな対応へとつながりました。

さらに、お問い合わせの内容もデータベース化し、職員による「声のチーム会」も発足。内容を分析することで、商品の品ぞろえや配達の仕組みなどの改善にもつなげました。



■「肝高のもずく餃子」 助成金贈呈

10月に発売された共同開発商品「肝高のもずく餃子」について、利用いただいた商品代の一部からなる助成金80,950円が、12月13日、現代版組踊「肝高の阿麻和利」を支援する「あまわり浪漫の会」に贈呈されました。



2009年度 【平成21年度】

■組合員	20万0024人
■供給高	209億9196万円
■出資金	44億6593万円
■職員数	270人

- 6/16 第36回通常総代会開催
- 6/23 「ファミリーピースウォーク」開催
- 7/25 「南大東島の海鮮タコライス」の商品代の一部を図書費として贈呈（52998円）
- 7/ 新子会社「株式会社コープ沖縄サービス」事業開始、ネット通信販売部門、ワークセンター部門を設置、「コープ沖縄サービスネットショップ」オープン
- 8/ 本島全域で「灯油の定期配送」を実施
- 9/18 「うちな〜とこ豚生産者交流会」開催
- 10/10 講演会「いただきますは誰に言う？（中尾卓嗣氏）」を開催
- 11/1 「肝高のもずく餃子」の商品代の一部を助成金として「あまわり浪漫の会」に贈呈
- 12/3 産直鳥取東伯牛の産直協定締結
- 1/11 お年玉募金（183万1625円）
- 11/20 「産直やんばる若どり生産者交流会」開催
- 1/17 「食育と健康まつり〜食はユイマール、食はヌチグスイ、食はチムククル〜」開催
- 2/10 コープこくぱりニューアルオープン
- 2/11 講演会「親子で食育」（岡崎好秀氏）開催
- 2/21 「食育・子育て爆笑講演会（中尾卓嗣氏）」を開催
- 2/28 オキコ㈱との共同で環境基金パン「ハートコレクション」を開発

■子会社「コープ沖縄サービス」設立

新子会社「株式会社コープ沖縄サービス（略称：コープサービス）」が、ネット通信販売部門と運輸事業、ワークセンター部門を設置して7月から事業を開始しました。

ネット通信販売部門では、コープおきなわの自主企画商品や県産優良商品などがインターネットで利用できるようになりました。

運輸事業は具志川・北谷の両支所でコープの個配の一部を担当。2010年度には西原支所内にも開設しました。

ワークセンター部門では9月に一般労働者派遣事業、12月に有料職業紹介事業を開始しました。



■食育関連事業

夏休みに子どもを対象に実施した「店舗調べ学習」は6店舗で11講座を行い、191名の親子が参加し、店頭で商品の賞味期限や原産国表示調べを実施しました。

「たべる・たいせつキッズクラブ」の申込者は38名（前年11名）、キッズクラブサポーター9名（前年4名）と活動が広がりました。あわせて親子米作りスクールも実施しました。

また、10月10日には、ウンチ博士こと中尾卓嗣氏の講演「いただきますは誰に言う？」を開

催。子どもの心と体の健全な発育について、環境問題、食料問題など自らの体験を交えての楽しい内容は大好評で、2月21日には石垣市でも同氏による講演が開催されました。

2010年1月17日には、読谷村文化センターで沖縄県生協連とコープおきなわによる「食育と健康まつり～食はユイマール、食はヌチグスイ、食はチムグクル～」を開催。このまつりは、食育の推進を通して県民の健康増進を図ろうと農林水産省補助事業の一環として行われ、約4000人の来場者でにぎわいました。

2月11日には、岡山大学病院小児歯科医の岡崎好秀氏を講師に招き「親子で食育」を開催。歯科医の経験を通じて今日の子どもの食生活の問題点について講演していただきました。



■東伯牛産直協定締結

やわらかくておいしいと評判の高い「鳥取県産東伯牛」は、1986年からエフコープ生活協同組合（福岡県）と産直の取り組みを継続してきており、安定した品質提供の実績と生協の産直活動への理解がありました。

コープおきなわでは2008年より店舗での取り扱いをスタート。2009年1月からは共同購入でも取り扱いを開始した他、12月3日には産直

協定を締結。店舗や共同購入で本格供給が始まりました。

協定締結前の9月にはコープおきなわから理事や職員らが産地を訪ね、産直商品の産地として適切であるかを点検。加工工場の視察も行いました。

■コープこくば リニューアルオープン

2月10日、コープこくばがリニューアルオープンしました。外観や内装は県立芸術大学の学生がデザイン。「フレッシュな温かさのあるお店」をコンセプトに、コープおきなわのりんごマークを初心への思いと新たな飛躍をイメージした「コープさわやかグリーン」へ変更し話題となりました。県内初の就労継続支援A型事業所としてテナント「パンの家アトリエ種子」も同日オープン。障がい者10人の新規雇用を生み出しました。



2010年度 【平成22年度】

■組合員	20万7638人
■供給高	206億6195万円
■出資金	46億0794万円
■職員数	260人

- 4/24 旅行业から撤退
5/3 共同購入の集品袋回収をスタート
6/7 「平和活動募金」(50万9294円)
6/14 コープ九州参加の生協で産直基準を統一
6/14 「口蹄疫に立ち向かう宮崎の畜産関係者を励ます応援募金」(14万2511円)
6/22 第37回通常総代会開催
6/23 6・23ファミリーピースウォーク
7/ 業務用語の見直し
共同購入事業→宅配事業、個配→コープ宅配、班→グループ宅配、パート職員→パートナー職員
8/8 第1回伊是名サマースクール開催(～13)
10/ 共同購入で廃食油回収
11/19 「産直やんばる若どり生産者交流会」開催
11/26 9号店「コープおろく」オープン
1/3 「お年玉募金」(198万5408円)(～2/11)
1/17 「美優ちゃん募金」(21万7936円)
1/20 伊是名島へ支援基金を贈呈
2/18 伊平屋村元気プロジェクト「チーム黒糖」発足
3/1 コープおきなわ創立35周年
3/19 商品大交流会を開催
3/22 コープおきなわと虹の会から東日本大震災緊急支援物資を送る
3/ 東日本大震災被災者救援募金を宅配と店頭で受付(1352万3283円)(～9/30)

■共同購入の集品袋・廃食油回収

組合員の声を受け、5月より共同購入の配達時に商品を入れるビニール袋(集品袋)の回収がスタートしました。各支所を經由して物流センターに集められた集品袋は、圧縮後、(株)ふじ産業さんでコープ専用のコンテナに保管され、さらに圧縮した後、運搬業者を通し、海外で再製品化されるようになりました。また、10月からは、家庭用廃食油の回収も始めるなど、環境保全活動を進めました。

■産直基準統一

九州・沖縄の7つの生協は、産直の考え方や目的、基準を共通にし、産直産地と力を合わせて安定生産を続けていくための活動をすすめました。同時に産直マークの新しいデザインを組合員から公募。283点の中から、エフコープ組合員の高島一公(かずまさ)さんの作品が選ばれました。

生協の産直は、つくる人と食べる人がしっかりとつながっている「産地直結」のこと。安全・安心の証として大切にしていかなければならないものです。

産直三原則

- ① 産地と生産者が明確であること
- ② 栽培・肥育・肥培方法(農薬、肥料、飼料など)が明確
- ③ 組合員と生産者が交流できること



■伊是名サマースクール

伊是名島が活気づくような特産品を作ろうと、村役場や漁協、商工会、メーカー、コープおきなわで「チーム伊是名」が結成されました。

8月8日～13日の6日間、開発商品の売り上げの一部を還元した伊是名島初となる高校受験のための特別無料塾“サマースクール”が開講しました。講師は伊是名村出身で、琉球大学教授（当時）の高良倉吉氏のゼミ生3人が務めました。

参加者からは「勉強させてやりたいけど、経済的に無理だったのでありがたい」という親や、「受験勉強への意識が高まった」という子どもたちの感想がありました。



■コープおろくオープン

11月26日、コープおろくがオープンしました。生協発祥の地域で1号店の候補にあがりながらも条件が整わず、20年にわたる粘り強い交渉の末、やっと形になりました。

7月には組合員のための生協らしいお店をつくらうと「小祿に店舗をつくる会」が発足。13人の組合員がコープ職員とともに取り組んできました。広報紙を発行してコープおろくの進捗を知らせ、地域の方々へのアンケート調査も行いました。また、お店の名物商品をつくらうと、商品開発に携わり、工事現場の方々へ手作りぜんざいやかき

氷を振る舞うなど活躍しました。



■東日本大震災復興支援

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、大津波や原発事故をも引き起こし未曾有の被害をもたらしました。地震発生後すぐに全国の生協が連携し、被災地支援や生活安定に向けた取り組みを行いました。コープおきなわとお取引先でつくる虹の会から、コープのさんびん茶、ユイロール、粉ミルクなどを送りました。



2011年度 【平成23年度】

■組合員	21万2847人
■供給高	207億0384万円
■出資金	47億4116万円
■職員数	247人

4/1	35周年記念のキャッチコピー「つながるひろがる暮らしにスマイル」とシンボルマーク「みいつくん」が決まる
4/4	コープふくしまに職員5名を派遣（～6）
5/4	被災地生協活動支援に職員3名を派遣（～9）
5/30	「平和活動募金」（44万7402円）
6/21	第38回通常総代会開催
6/23	「6・23ファミリーピースウォーク」開催
7/4	被災地生協活動支援に職員2名派遣
7/24	伊平屋稲刈りツアー開催
7/28	「イカスミぎょうざ墨ちゃん」の商品代の一部を教育活動支援金として伊江村に贈呈
8/2	「伊平屋村元気プロジェクト」として、現役東大生を講師としたサマースクール開講
8/7	「ピースアクションinナガサキ」派遣
8/17	第2回伊是名サマースクール開催（～24）
10/14	伊平屋島にアガラサー教育支援金を贈呈
11/19	「フード・アクション・ニッポンアワード2011」で、コープおきなわの地域おこしの取り組みが優秀賞を受賞
12/2	「東伯牛生産者交流学習会」開催
1/1	「お年玉募金」（142万9202円）
2/10	「うちな～とこ豚生産者交流会」開催
3/	東日本大震災復興支援「つながろうCO・OPアクション暮らし応援募金」始まる
3/15	コープ各店で生産者交流会を開催（～17）

■東日本大震災復興支援はじまる

4月4日～6日、コープふくしまの事業支援のため、コープおきなわから5名の職員を派遣しました。その後も、5月、7月と被災地へ職員を派遣するなど、全国の生協とともに被災地への人的支援、緊急物資支援を行いました。

日本生協連では、被災者の暮らし復興に向けた個別の取り組みをその都度選定して支援する「CO・OPアクション暮らし応援募金」を全国の生協に呼び掛けるなど、長期にわたる多様な支援を進めました。

コープおきなわでも、復興支援募金、生活応援募金として、1530万円の募金が寄せられ、募金の一部は、県内へ避難してこられた被災者支援に設置された「沖縄東日本大震災協力会議」に届けました。

また、福島の子どもの被ばく積算量低減のため、週末や長期休暇中に子どもと保護者を低線量の地域に連れ出し、野外活動を楽しむなど被災地の親子を癒やす企画「福島の子どもの保養プロジェクト」と、学校図書の復旧・充実を通して、被災地の子どもたちを教育面から支援することを目的に、岩手・宮城・福島県の小中高校の図書館に被災地の地元書店から購入した図書を寄贈する「学校図書館げんきプロジェクト」への支援募金も開始しました。



■伊平屋での地域おこし活動

地域おこし商品の取り組みとして、伊平屋島の黒糖を使った商品「黒糖アガラサーミックス」「スライ斯拉フテー」が発売されました。商品開発から販売までを手掛ける6次産業化を進め、その収益を離島教育の支援に役立てるなど、島の活性化につなげようというもので、県産黒糖の消費を安定させ、黒糖を主な産業としている他の離島のモデルケースとなることをめざしました。

8月2日～7日には、現役東大生4人が講師を務める「夏休み集中学習講座サマースクール in いへや」が開催され、中学生を対象に高校受験対策、苦手教科克服などの講座が行われました。

10月14日には、「黒糖アガラサーミックス」の商品代の一部2万9260円が伊平屋村に贈呈されました。



■「フード・アクション・ニッポンアワード2011」受賞

食料自給率向上に寄与する事業者・団体等に贈られる「フード・アクション・ニッポンアワード2011」製造・流通・システム部門において、コープおきなわの地域おこしの取り組みが優秀賞を受賞しました。

この賞は農林水産省共催、内閣府・文部科学省・環境省後援により、食料自給率向上に向けた国民運動の一環として優れた取り組みが表彰されるもので、全国1025件の応募の中から選ばれました。

